

I 全国学力・学習状況調査

1 調査の目的

- ・ 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査実施日

平成31年4月18日(木)

3 調査対象

小学校第6学年、中学校第3学年

本市の実施状況	実施校数	当日実施した児童生徒数 ※		
		国語	算数・数学	英語
小学校	16校	1,481名	1,485名	
中学校	7校	1,267名	1,263名	1,264名

※ 後日実施した児童生徒の結果は集計値に含まれません。

4 調査内容

(1) 教科に関する調査 国語、算数・数学、英語(中学校のみ)

- ・ 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ・ 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

(2) 生活習慣や学校環境等に関する質問紙調査

- ・ 児童生徒に対する調査
(学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関すること)
- ・ 学校に対する調査
(学校における指導方法に関する取組や学校における人的・物的な教育条件の整備の状況等に関すること)

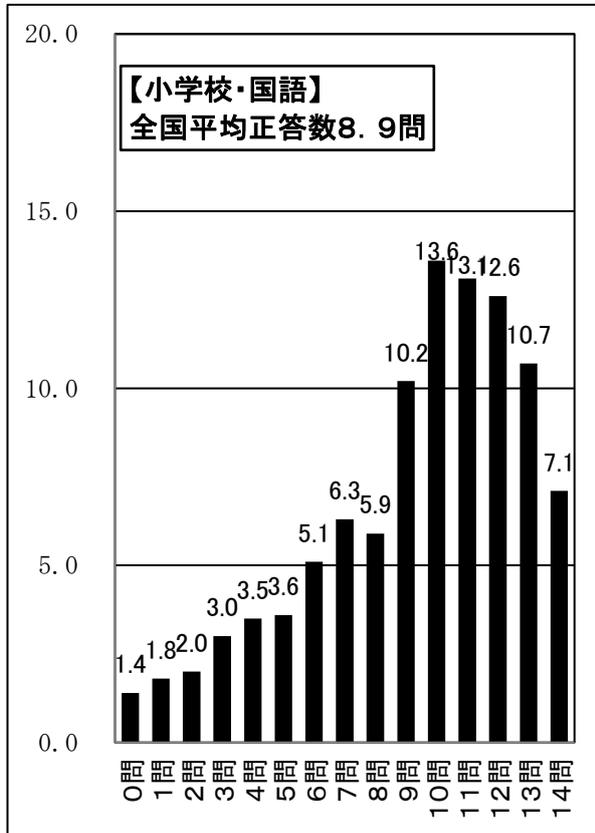
5 教科に関する調査の結果

(1) 小学校・国語

	習志野市(%)	全国(%)
国語	66	63.8

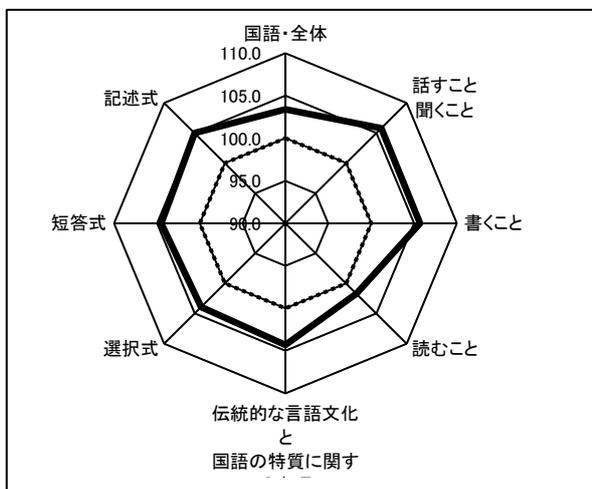
① 正答率(本市と全国)

② 正答数分布(本市)



③ 調査区分ごとに見た傾向

※全国平均を100としたときの本市の
相対値(太線)



④ 成果と課題

成果

国語の調査に関して、話す・聞く能力が全国平均正答率を上回っている。この土台となっている力は、前後の文脈から話の内容を捉える力が高まっていると考える。また、資料をどのような目的で用いられているかを読み取る力がついている。「話の中心は何か」「何について書かれているか」等、内容を理解することはできているので、接続詞に着目して読み取ったことを表現する力につなげていきたい。

課題

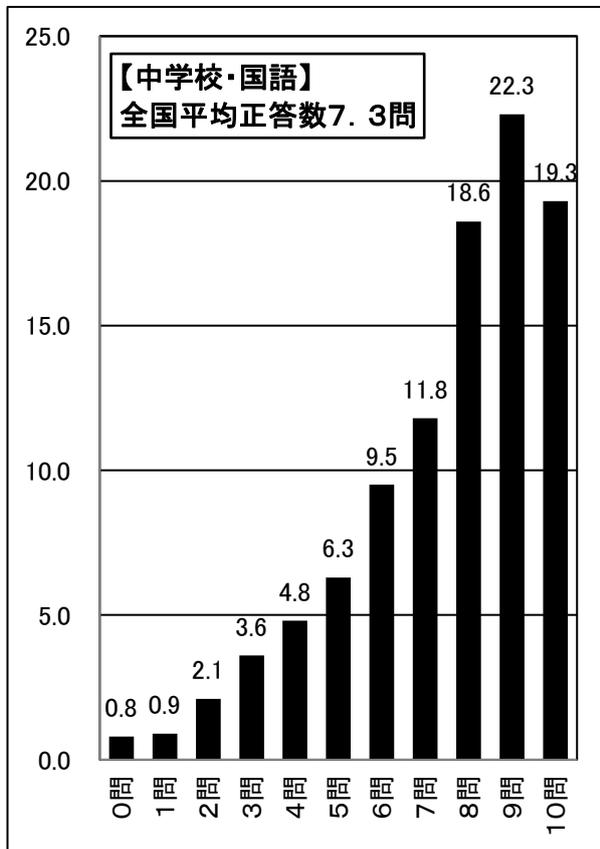
課題として大きく2点あげられる。1点目は、漢字の書き取りである。「限らず」等の決まった漢字は正答率がやや高くなる。しかし、「カンシン」や「タイショウ」等の同音異義語になると、正答率が低くなる。今後は、同じ音をもつ漢字の中でどれが適切な使い方なのかを思考し、活用できる力をつける必要がある。そのために、様々な熟語を用いて短文を作る学習を積み重ねていき、意味と用例を結び合わせながら正確に使いこなすことができるようにしていくことが重要である。2点目は条件に合った短文の書き取りである。何のための事例なのかを考察できず、筆者の主張を考えながら文章を読めていないことが原因だと考えられる。また、前後の言葉や文を取り上げて自分の言葉で表現すること、ふさわしい言葉遣いで話すことに課題がある。「はじめ」「中」「終わり」の文章構成を考えるとともに、事例と筆者の考えの区別を明確にして内容を読み進めていかなければならない。必要な情報を読み取り、自分の言葉でまとめる力をつける必要がある。

(2) 中学校・国語

① 正答率(本市と全国)

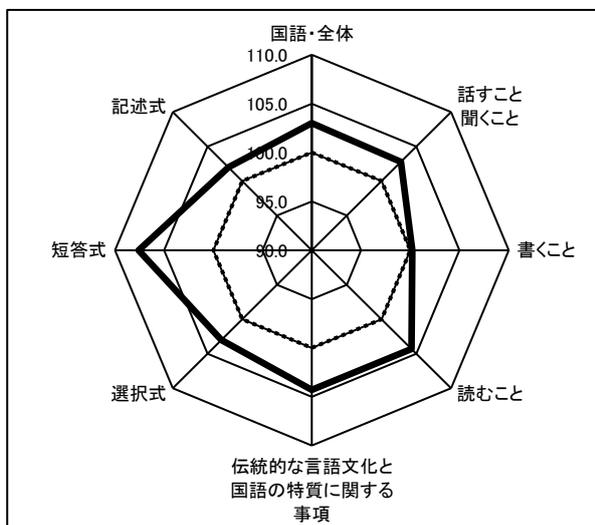
	習志野市(%)	全国(%)
国語	75	72.8

② 正答数分布(本市)



③ 調査区分ごとに見た傾向

※全国平均を100としたときの本市の
相対値(太線)



④ 成果と課題

成果

中学校の調査では、文章の構成や展開、表現の仕方について、根拠を明確にして自分の考えをもつことの正答率が高く、全国平均を上回っている。接続詞をもとに文章を読み取る力がついていると考えられる。また、形式にのっとった場合は、自分の考えを簡潔にまとめることができる。今後は形式の有無に関わらず書けるようにしていきたい。また、引き続き筆者の考えを抑えながら内容を読み進めていくことができるように、指導を工夫していく必要がある。

課題

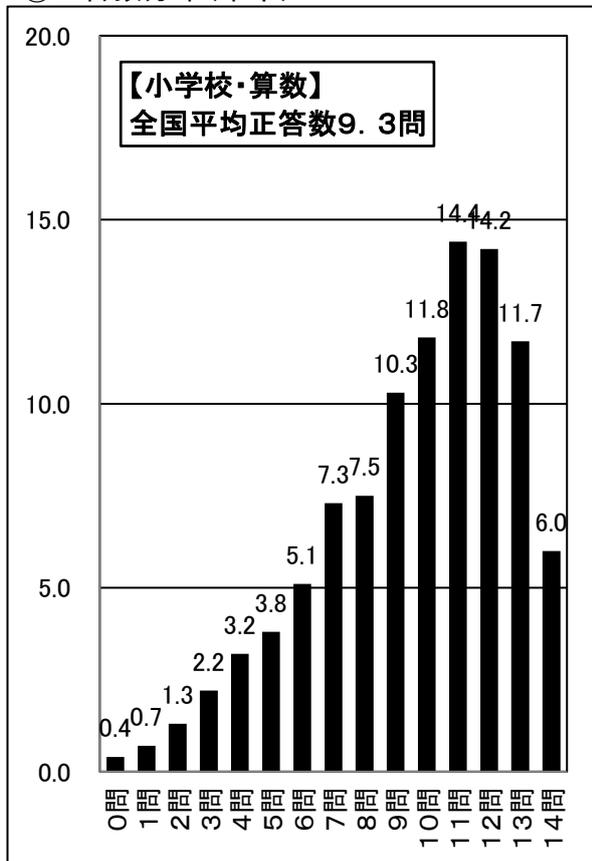
課題として大きく2点あげられる。1点目は自分の考えをまとめ、実際に話すように書くことである。また、読み取った内容を自分の中で整理し、表現することに課題がある。そのため、誤答だけではなく無回答も多い。また、どのような話し方が相手にとってわかりやすく、効果的なのかを考えることも重要だ。そして、「話し言葉」と「書き言葉」の区別を明確にし、正しく書く能力を高めていかなければならない。実際に今後は、資料を読み、自分の考えをまとめる力をつける必要がある。2点目は手紙の書き方である。住所や氏名の位置等ある程度の書き方は理解しているが、文字の大きさ等の細かい部分への注意がなされていない。今後は総合的な学習の時間等、他教科と連携して、暑中見舞いや職場体験学習のお礼状作成や年賀状作りなど、実践的な活動として取り組んでいく必要がある。「手紙の書き方」は、社会人になっても多くの場面で重要になるので、意識的に「書く」場面を設定して学習を行っていく。

(3) 小学校・算数

① 正答率(本市と全国)

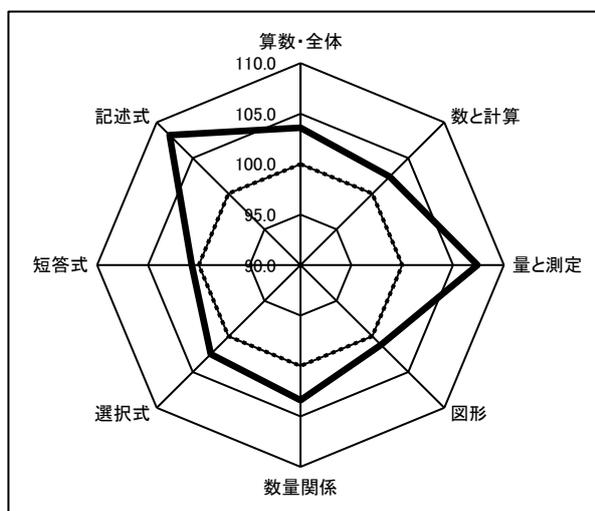
	習志野市(%)	全国(%)
算数	69	66.6

② 正答数分布(本市)



③ 調査区分ごとに見た傾向

※全国平均を100としたときの本市の
相対値(太線)



④ 成果と課題

成果

学習指導要領の領域の4観点「数と計算」(102. 4)、「量と測定」(107. 4)、「図形」(101. 2)、「数量関係」(103. 4)の全てで、全国平均を上回った。特に「量と測定」が昨年より3%以上上回っている。

また、問題形式での「選択式」(102. 5)、「短答式」(100. 7)、「記述式」(108. 2)とも、全国を上回った。特に「記述式」の高さが目立った。

「数学的な考え方」を要する、目的に適した必要な事柄を選択し、立式し、答えから結果を判断する問題に対するの正答率が、全国平均より上回った。

課題

棒グラフからの変化の傾向を読み取るなどの数量関係、小数で四則演算が混在する式の計算などで、全国平均を下回った。

出題の傾向として、生活の場面等を題材にした複合的な問題が多かった。単純な立式、計算の前に、問題となっている場面を理解できる必要がある。

また、4学年での学習内容が活かされる問題が多かった。

以上のことから、生活の場面等を題材にした複合的な問題を数多く経験することが必要である。文章を読み取り、場面にあった立式をする点も、実際の生活に根ざすような問題を解くような学習に意図的に繰り返し取り組んでいく必要がある。

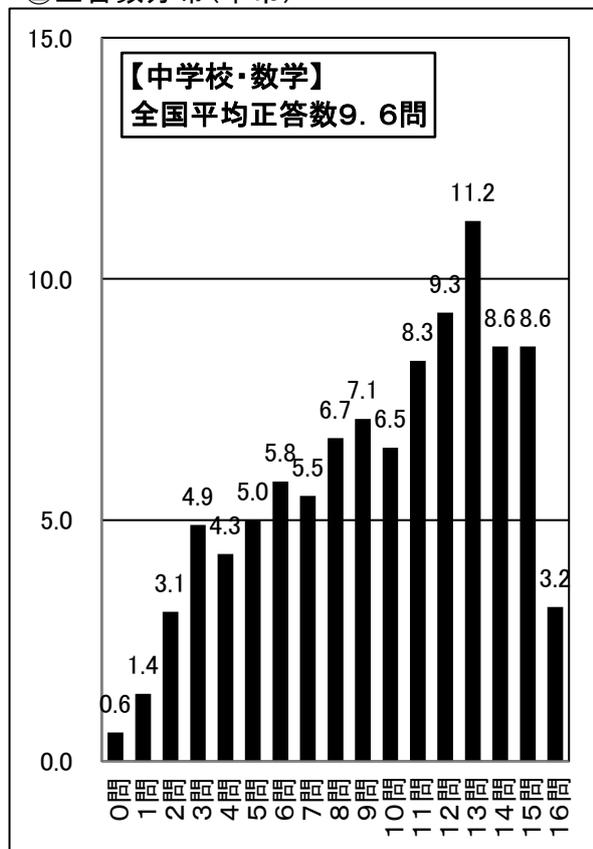
また、学年間の系統性を踏まえた指導をしていくことが必要である。特に数と計算の領域では、整数での決まりが小数や分数になっても同様の手順で進められることが理解できるようにしたい。

(4) 中学校・数学

① 正答率(本市と全国)

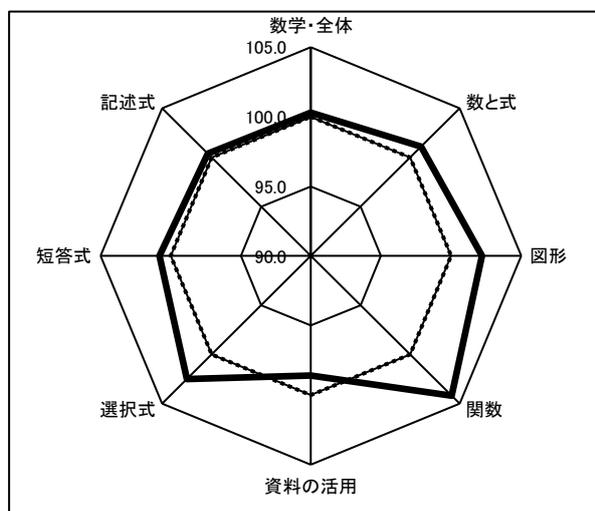
	習志野市(%)	全国(%)
数学	60	59.8

② 正答数分布(本市)



③ 調査区分ごとに見た傾向

※全国平均を100としたときの本市の
相対値(太線)



④ 成果と課題

成果

学習指導要領の領域の4観点の全て、全国平均を上回った。特に「関数」(104.2)、「図形」(102.2)が目立った。

また、問題形式別でも、「選択式」(102.5)が全国平均を上回り、「短答式」(100.8)、「記述式」(100.4)も、わずかだが上回った。

課題

全体としては、全国平均を上回ってはいるが、差はごく僅かであった。

また、正答数分布の上位がいる一方で、正答数が少ないグループも一定数存在していた。正答数5問以下なのが19.3%であった。

出題傾向として、単純に計算すれば良いわけではなく、示された表やグラフ、意見等が適切かどうかを読み解く力が必要になるような問題が多かった点も、下位層が多くなってしまいう一因と考えられる。

学習指導要領の領域の観点のうち、「資料の活用」(98.6)が全国平均を下回った。グラフとして表された資料の傾向を的確に捉え、分析する力が十分発揮されていない結果となって現れた。

調査からヒストグラム等に表すことは授業でも経験するが、その後、作ったものからどのような傾向が読み取れるのか、考察する機会をしっかりと取り、繰り返す必要がある。「数と式」に関して、式変形の目的を捉えることにも課題が見られた。

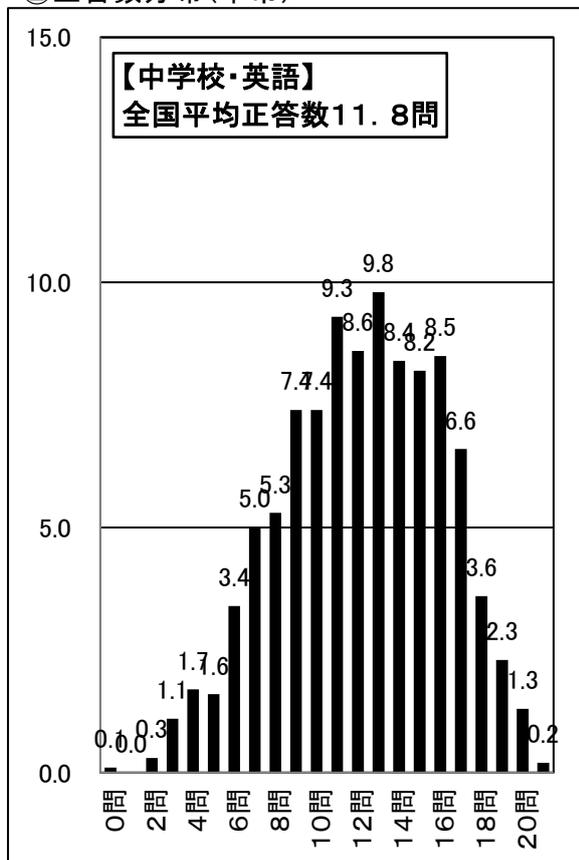
文字を使った式が、具体的にどのような数を表すのかという点や、何を説明したいのか、目的や見通しをもって式変形をする経験を積ませたい。

(5) 中学校・英語

① 正答率(本市と全国)

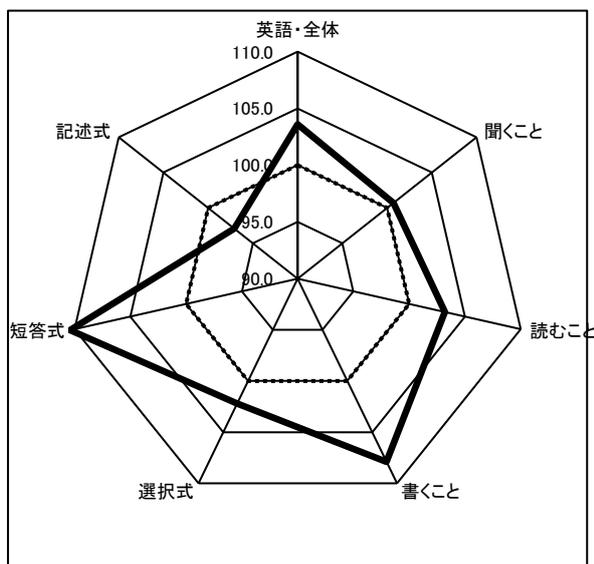
	習志野市(%)	全国(%)
英語	58	56.0

② 正答数分布(本市)



③ 調査区分ごとに見た傾向

※全国平均を100としたときの本市の
相対値(太線)



④ 成果と課題

成果

今年度初めて実施のため、昨年度と比較することはできないが、本市の平均正答率は、県・全国の平均正答率を2%上回っている。特に、領域で見た場合「書くこと」において、全国を3.6%、県を4.7%上回っている。また、問題形式で見ると、「短答式」で答える問題の正答率が全国を4.4%、県を6.6%上回っている。

また、質問紙調査では、英語そのものや英語学習について肯定的に捉えていることが読み取れた。

課題

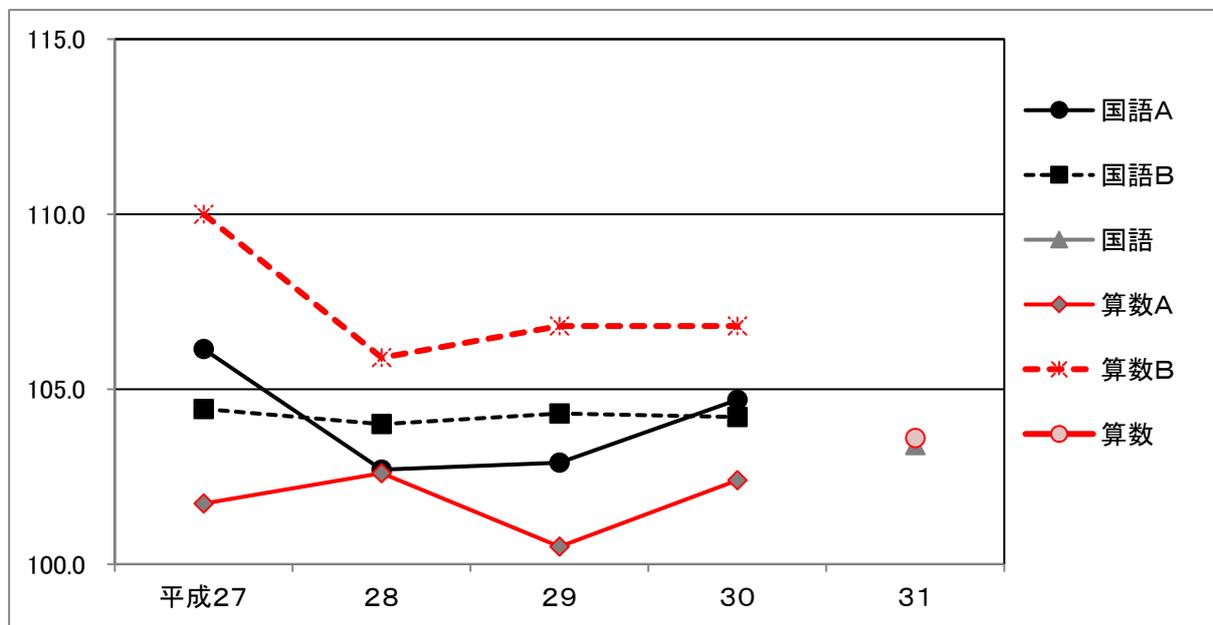
学習指導要領の領域で見た場合、「聞くこと」の正答率がわずかだが県を0.1%下回っている。評価の観点では「外国語理解の能力」で県を0.2%、問題形式では、「記述式」の問題で全国を0.2%下回っている。さらに、自分の考えを書く記述式の問題においては、無回答率が高くなっている。無回答率に関しては、県・全国の無回答率を上回るものではないが、本市の生徒の学力をさらに向上することができる可能性がある領域といえる。質問紙調査の結果からは、英語学習について肯定的な考えをもつ生徒が多くいることが分かる。解答時間については、他教科と比べて十分だったと答えた生徒が20%も少なかった。時間があればもう少しできたと感じている生徒がいると考えられる。授業中に記述する経験を多く積ませることで慣れさせ、短時間での回答につなげることも必要である。

よって、特に「聞くこと」「書くこと」についての力をつけることが課題であると考えられる。「聞く力」の向上に向けて、①聞き取るポイントを示す②目的によって聞く回数を工夫する③聞くこと・話すことの手間を増やすことをポイントとし、授業改善を図る。また、「書く力」の向上に向けて、技能を統合した活動を組むこと等をポイントとし、学力向上につなげたい。

6 5年間の経年変化

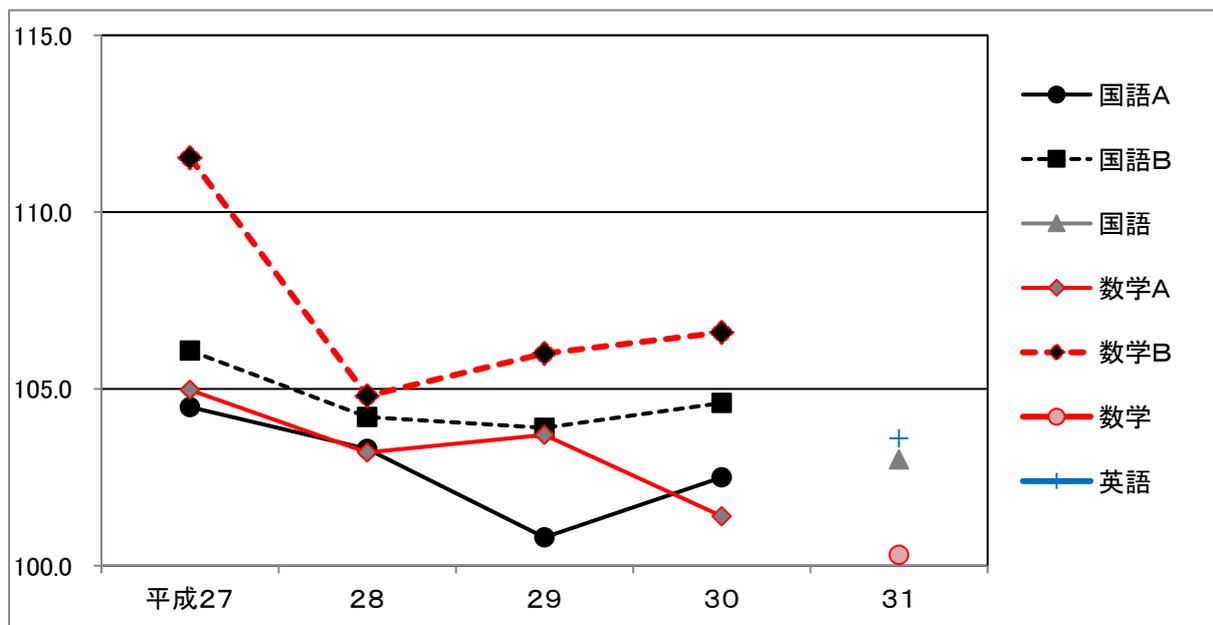
(1) 小学校

※折れ線グラフは、全国平均を100としたときの本市の相対値を調査内容別に表示している。



(2) 中学校

※折れ線グラフは、全国平均を100としたときの本市の相対値を調査内容別に表示している。



7 児童生徒質問紙調査の結果

(1) 小学校

① 全国値に比べ該当する児童の割合が高い項目(5ポイント以上)

- ・国語の勉強は好き。 [習志野市:69.9% 全国:64.2%]

② 全国値に比べ該当する児童の割合が低い項目(5ポイント以上)

- ・先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思うか。 [習志野市:86.2% 全国:91.7%]
- ・今住んでいる地域の行事に参加している。 [習志野市:60.7% 全国:68.0%]
- ・算数の勉強は好き。 [習志野市:61.9% 全国:68.6%]
- ・算数の授業の内容がよくわかる。 [習志野市:78.4% 全国:83.5%]

(2) 中学校

① 全国値に比べ該当する児童の割合が高い項目(5ポイント以上)

- ・学校の部活動に参加している。 [習志野市:93.1% 全国:86.6%]
- ・将来、積極的に英語を使うような生活をしたり仕事に就いたりしたい。 [習志野市:48.8% 全国:41.3%]

② 全国値に比べ該当する児童の割合が低い項目(5ポイント以上)

- ・先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思うか。 [習志野市:77.6% 全国:84.6%]
- ・学級みんなで話し合って決めたことなどに協力して取り組み、うれしかったことがあるか。 [習志野市:76.3% 全国:82.8%]
- ・今住んでいる地域の行事に参加している。 [習志野市:38.7% 全国:50.6%]
- ・日本やあなたが住んでいる地域のことについて、外国の人にもっと知ってもらいたいと思う。 [習志野市:53.6% 全国:59.3%]
- ・1,2年生のときに受けた授業で、コンピュータなどのICTを週に1回以上使用したか。 [習志野市:15.1% 全国:30.6%]
- ・総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいると思うか。 [習志野市:47.5% 全国:61.5%]
- ・学級生活をよりよくするために学級活動で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていると思うか。 [習志野市:60.7% 全国:71.6%]
- ・学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいると思うか。 [習志野市:58.7% 全国:65.6%]
- ・自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していたと思うか。 [習志野市:47.1% 全国:55.8%]
- ・国語の授業では、目的に応じて、自分の考えを話したり書いたりしているか。

[習志野市:72.1% 全国:77.4%]

・国語の授業で自分の考えを話したり書いたりするとき、うまく伝わるように根拠を示したりするなど、話や文章の組立てを工夫しているか。

[習志野市:57.9% 全国:64.4%]

・数学の授業の内容がよくわかる。

[習志野市:66.6% 全国:73.9%]

・数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思うか。

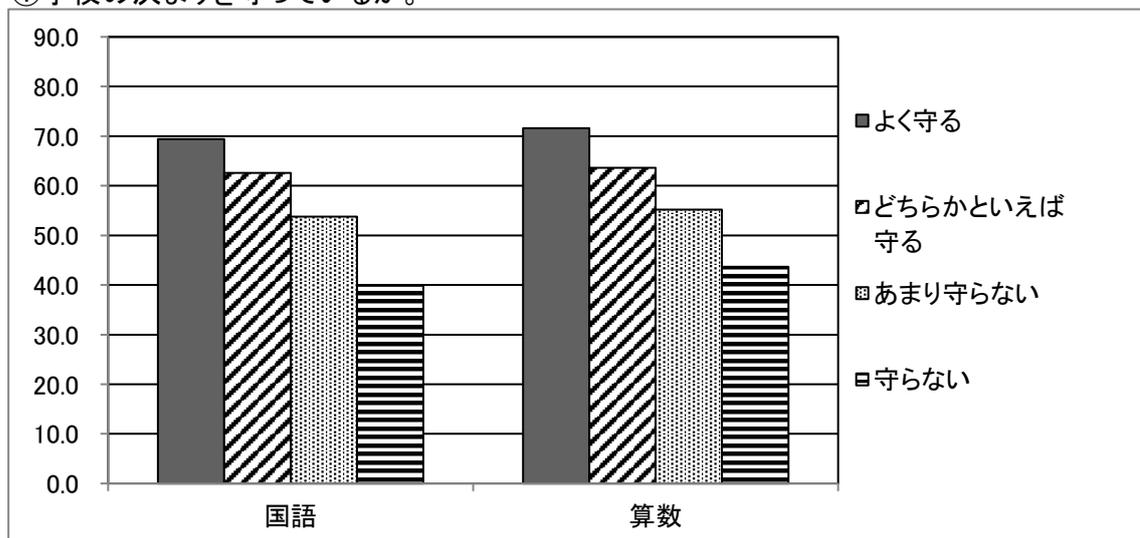
[習志野市:70.8% 全国:76.2%]

8 児童生徒質問紙調査の回答結果と教科に関する調査の正答率との相関関係

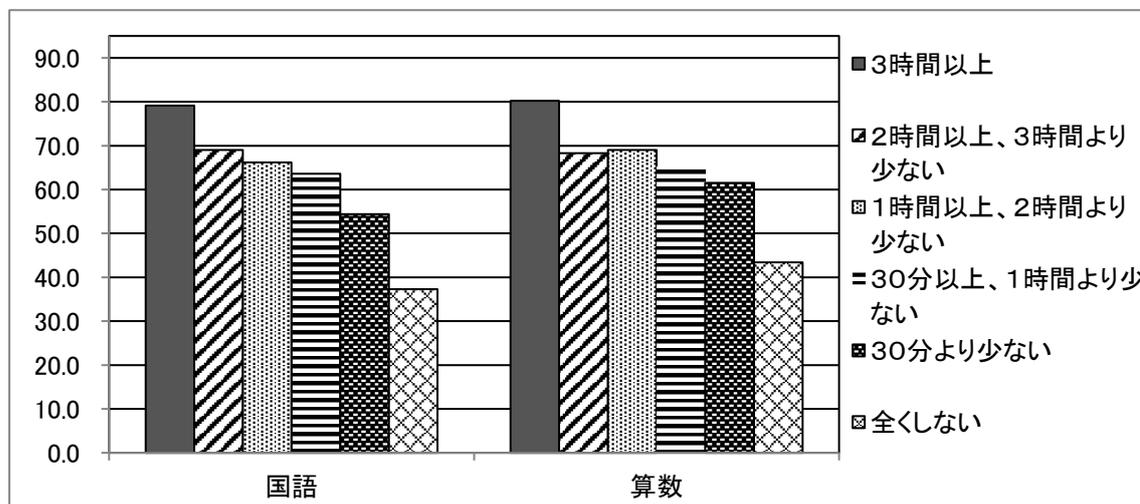
(1) 小学校

※質問事項に対する児童の回答(選択肢)と、教科に関する調査の正答率との関係を棒グラフで示しています。ここでは、肯定的な回答(選択肢)と正答率の高さに大きな相関関係が見られるものを載せています。(単位点)

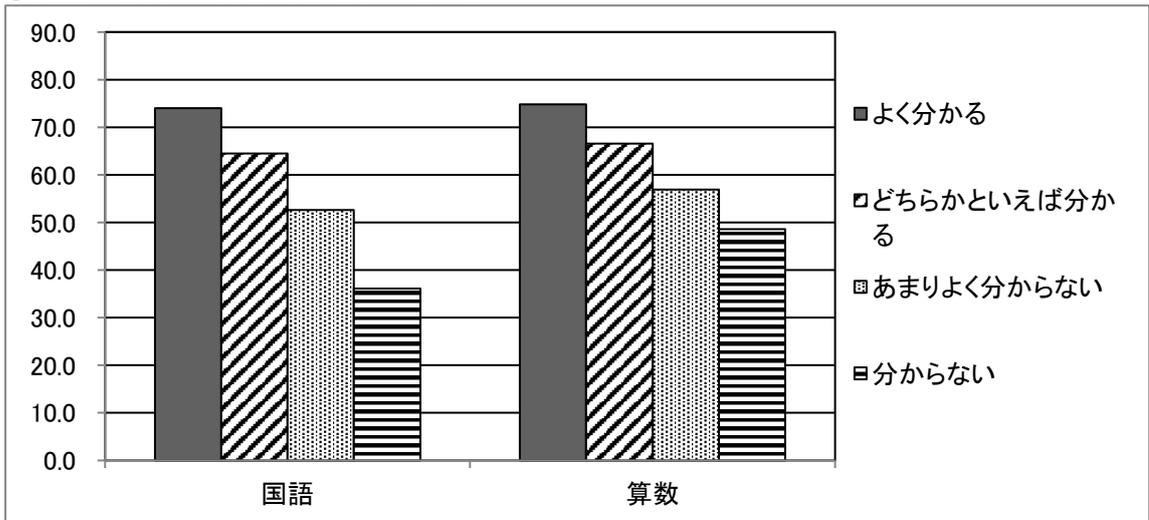
① 学校の決まりを守っているか。



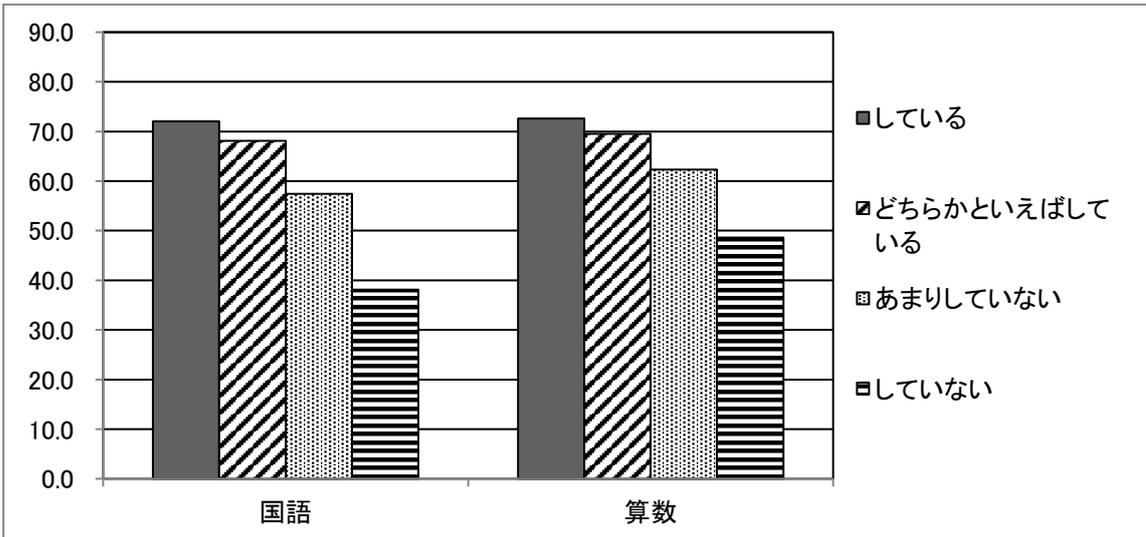
② 学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしているか(学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む)。



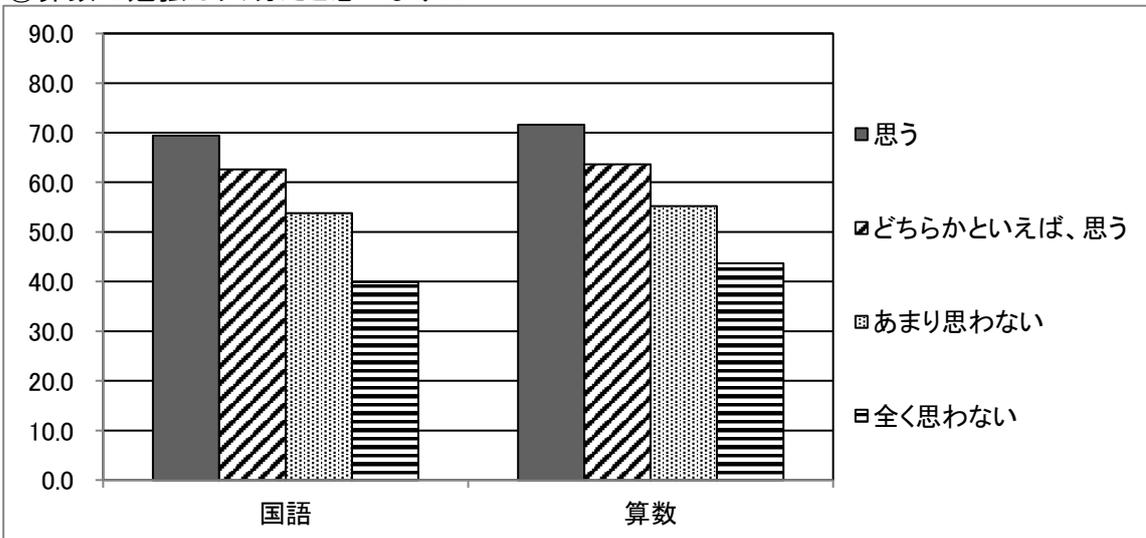
③国語の授業の内容はよく分かるか。



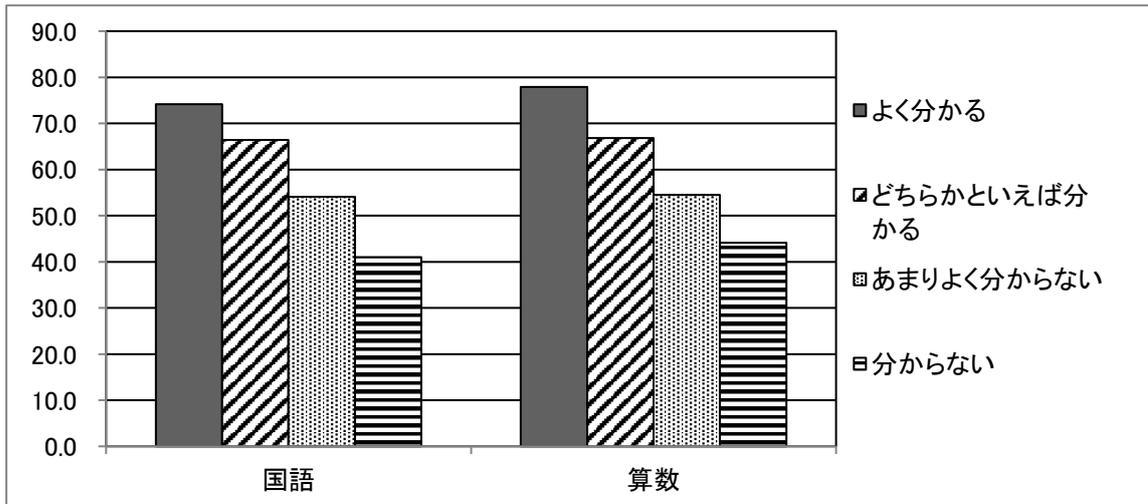
④国語の授業では、目的に応じて、自分の考えを話したり書いたりしているか。



⑤算数の勉強は大切だと思いますか

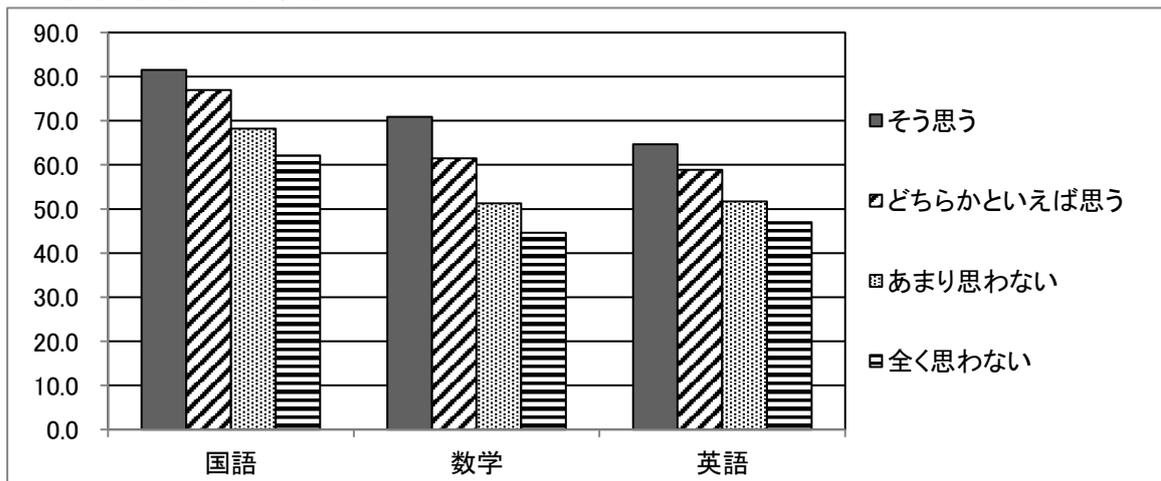


⑥算数の授業の内容はよく分かりますか

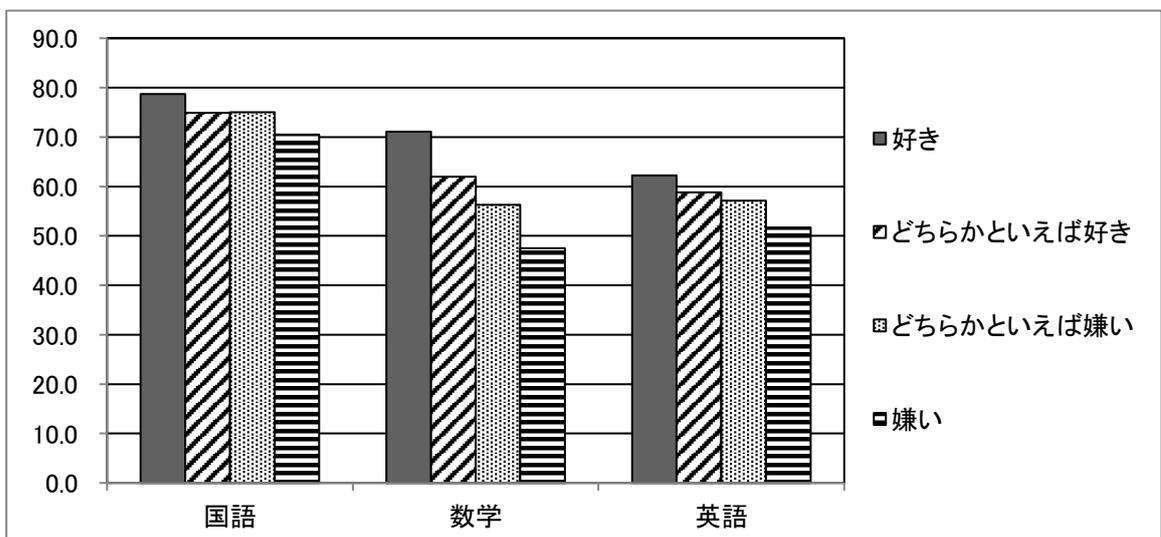


(2) 中学校

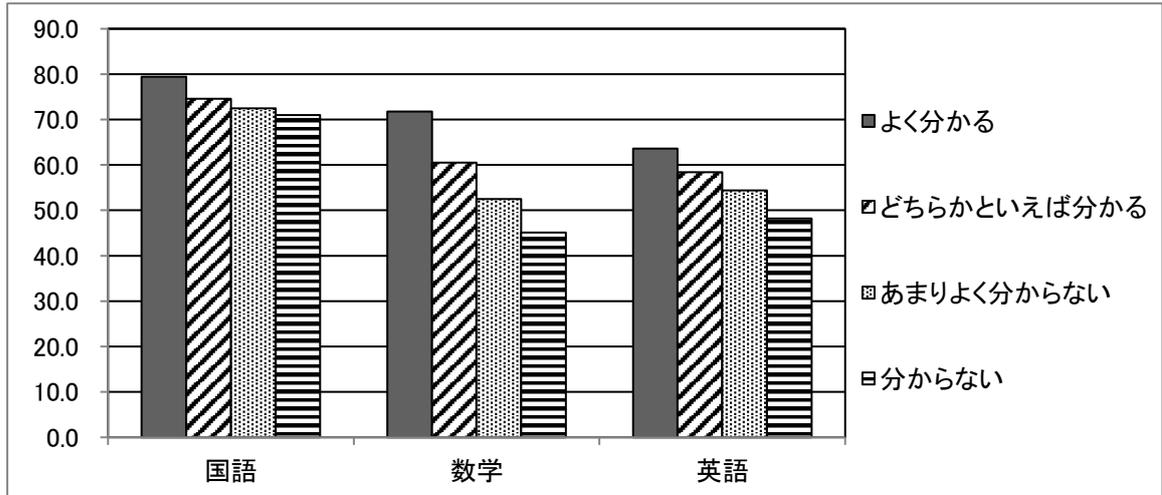
①1, 2年生のときに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思いますか



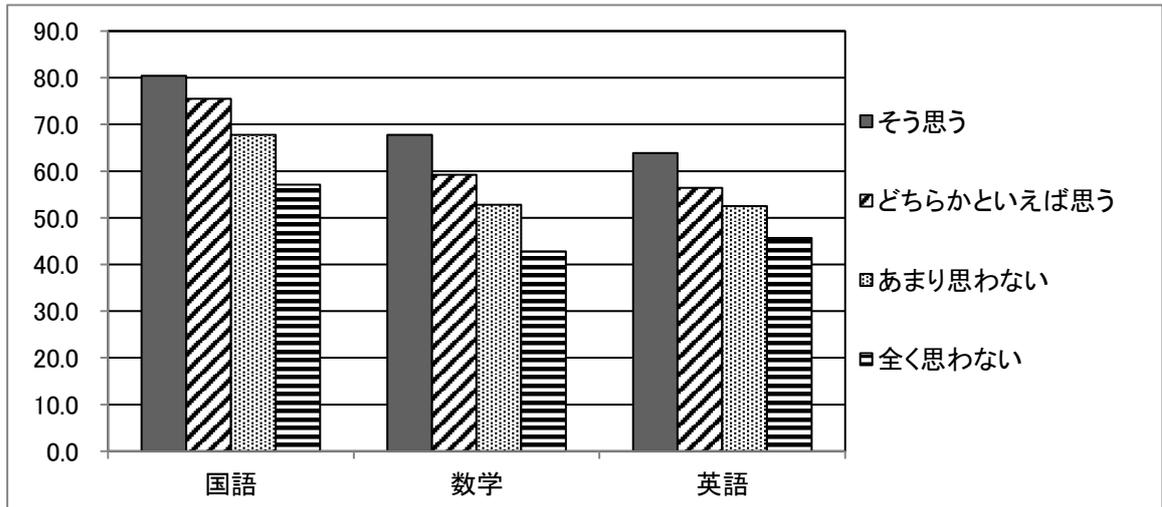
②数学の勉強は好きですか



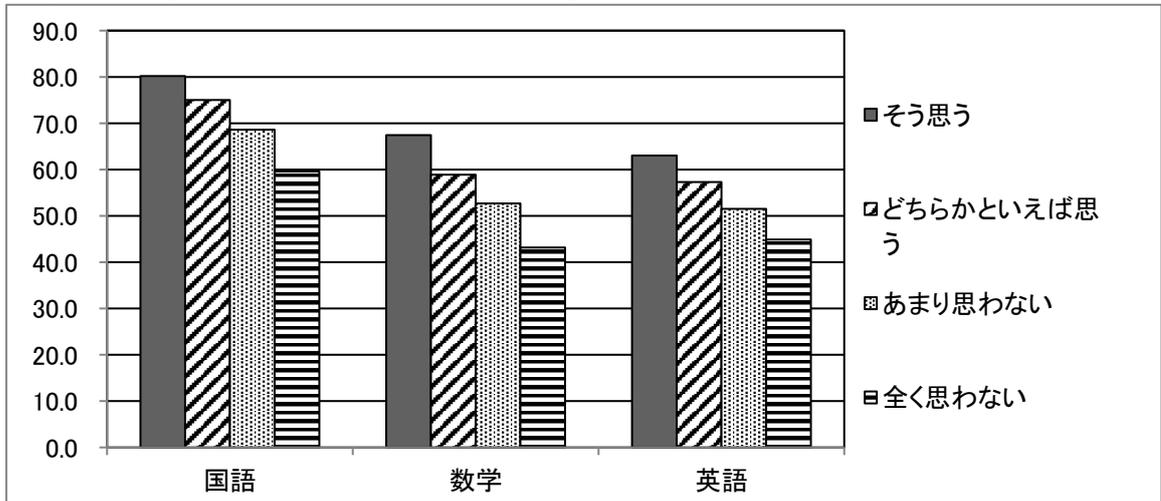
③ 数学の授業の内容はよく分かりますか



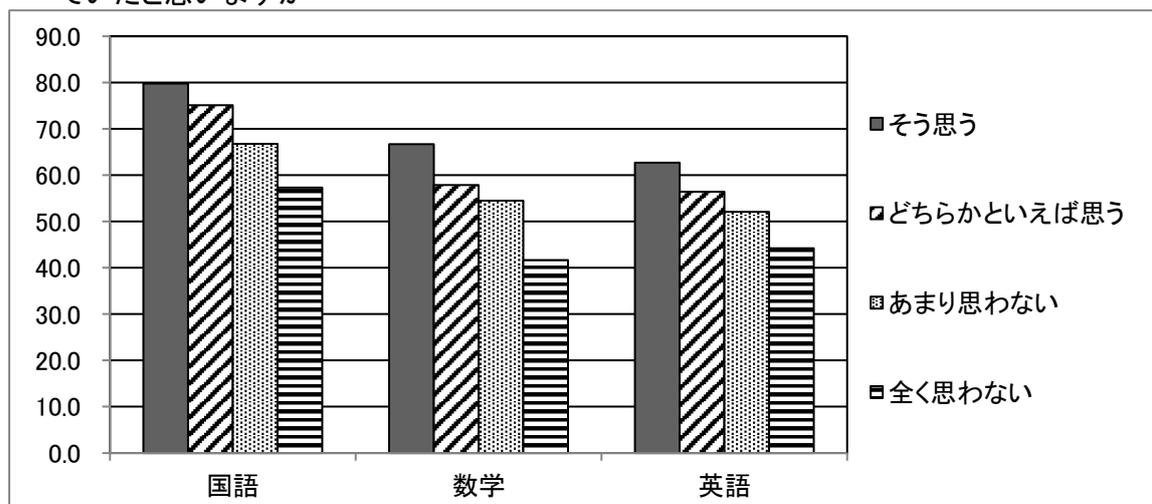
④ 1, 2年生のときに受けた授業では、英語を読んで(一文一文ではなく全体の)概要や要点をとらえる活動が行われていたと思いますか



⑤ 1, 2年生のときに受けた授業では、スピーチやプレゼンテーションなど、まとまった内容を英語で発表する活動が行われていたと思いますか



⑥1, 2年生のときに受けた授業では、自分の考えや気持ちなどを英語で書く活動が行われていたと思いますか



9 調査結果についての考察

(1) 教科に関する調査から

① 国語では

これまでの「知識(A問題)」「活用(B問題)」が統合され、解答するためには問題文の読解から始めなければならないような問題形式に変わった。小学校、中学校ともに、平均正答率は全体的にも、領域別でも、全国平均を上回っている。無答率も、問題によって多少ばらつきはあるものの、全国平均とほぼ同じであり、取り組み方に問題はない。総合的な問題にかわったことで浮き彫りになった課題として、小学校における漢字の活用力が挙げられる。「タイショウ」を漢字で書く問題は、文脈の中で意味を捉え、適切な漢字を選択して、正確に書くことが求められる。この点に留意した漢字学習が望まれる。中学校では、書写学習に課題が見られた。封筒の宛名の書き方が出題されたが、文字の大小まで理解していないと正解できない問題であり、誤答が多かった。年間指導計画に「思考力・判断力・表現力等」を意識した書写学習をどのように位置付けていくかといったカリキュラムマネジメントの必要がある。

② 算数・数学では

問題形式が、昨年までのものと異なり、知識、活用が一つになったこともあり、大問を読み取りながら回答していく問題が多くなった。小学校、中学校ともに、全国平均正答率は上回っているが、昨年までの結果と比べると、その差は狭まっているところである。

小学校では、学習指導要領の4領域とも全国比で上回っているが、問題毎に見ると、棒グラフの経年変化や小数を含む四則演算で全国平均を下回る問題もあった。領域毎での指導内容の系統性を理解した上での指導が一層必要である。また、実際の生活に根ざすような問題を解くような学習に意図的に繰り返し取り組んでいく必要がある。

中学校では、「資料の活用」の領域が全国平均を下回った。簡単な場合の確率や、グラフの傾向を読み取り、分析する力に課題があるという結果である。実際に試行する経験や、データから考察する機会を繰り返すことで、実感を伴った学びにつなげたい。

③英語では

読んだり聞いたりして得た情報をもとに、自分の意見や考えを述べる問題形式が増えた。まとまった英文を読んだり聞いたりして内容を正しく理解する力だけでなく、そこから自分の考えを表現する力が問われている。

本市の傾向としては、平均正答率が、県・全国の平均正答率に比べて2%上回っている。領域別(技能別)には、「書くこと」、「読むこと」とともに県平均を上回っているものの、「聞くこと」に関しては、県平均を0.1%下回っている。絵や図、グラフ等から聞き取りや読み取りのポイントを捉え、必要な情報を読み取る力を育てることが課題となっている。また、自分の考えを書く記述式の問題においては、全国平均を下回る問題はないものの、無解答率が高くなっている。無解答率を下げることで、本市の生徒の学力をさらに向上させることにつながる。

(2)児童生徒質問調査から

- ①小学校では、「国語の勉強が好き」という肯定的な回答が全国値より高かった。しかし、「国語の授業の内容がよく分かる」の項目では0.8ポイント上回っているだけだった。また解答を文章で書く問題については、18.8%の児童が、「解答しなかったり、途中であきらめたりしたものがあつた」としている。書くことに抵抗を感じているため、日頃から書く習慣を付ける必要がある。算数については好きではなく、授業内容もよく分かっていないと回答している。これは昨年に引き続いていて、算数に対する関心を高めていく必要がある。また、「言葉や数、式を使って、わけや求め方などを書く問題」については、「解答しなかったり、途中であきらめたりしたものがあつた」とする児童が17.2%で国語と同様に多かった。「今住んでいる地域の行事に参加している」の項目は、7.3ポイント下回ってはいるが、昨年の9.1ポイントに比べると差が小さくなっている。
- ②中学校では、「将来、積極的に英語を使うような生活をしたり仕事に就いたりしたい」の項目が全国値より5ポイント以上高かった。しかし、「日本や住んでいる地域のことについて、外国人にもっと知ってもらいたい」の項目は5.7ポイント低く、「英語の勉強は大切だと思う」「英語の授業はよく分かる」の項目は全国値と変わらない。将来への関心が高いことをきっかけに学力の向上へとつなげたい。また国語では、「目的に応じて、自分の考えを話したり書いたりしている」「自分の考えを話したり書いたりするとき、うまく伝えるように根拠を示したりするなど、話や文章の組み立てを工夫している」の項目が低い。小学校と同様、日常の中で書くことや表現する機会を多く設定していく必要がある。「数学の授業の内容はよく分かる」「数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う」の項目の低さは昨年に引き続いていて、また、「言葉や数、式を使って、わけや求め方などを書く問題」については、「解答しなかったり、途中であきらめたりしたものがあつた」とする生徒が42.1%おり、最後まで書こうとしない傾向が見られた。「学習したことが日常生活のどのような場で生かされているのを実感させ、関心を高めていく必要がある。「今住んでいる地域の行事に参加している」の地域との関わりについての低さは小学校と同様である。